

祈りある人生（後編）

今月号は先月号の続きということ
で、早速お話しを進めてまいりたい
と思います。

「世の中に無駄な物は一つない」と
思います。自分にとってマイナス
と思える出来事も、心の目で見れば
自分を生かし、成長させてくれる大
切な天からのプレゼントがそこには
秘められているはず。心一つの
置き所で生き方が大きく変わってき
ます。

例えば病気です。誰も望まない闘
病生活ですが、病気になるなくては
気づけない世界があるのも事実で
す。人の温かさや親切、健康で生き
られることの喜びなど、病気は色々
なことを私達に教えてくれます。そ
のことが分かっていると、辛いと思
える出来事を乗り越えていこうとい
う力が湧いてくるものです。嫌な出
来事は、私達を成長させる力を裏に
秘めているといえるでしょう。辛く
苦しい時、自分は今大きな成長を遂
げる最中にある、これはチャンスな
のだ、と心の置き所を転換してみる
のはとても大事なことです。憂いや
苦しみから逃げず、真つ正面から受
け入れて乗り越えた時、その人はぐ
っと人間的な深みを増し、人生は大
きく花開いていくのだと思います。
私達の人生は、良い事と悪いこと
がバランスを取り合って成り立つて

います。私達を憂鬱にし、不幸にし、希
望を失わせるものの中にも必ず良い事
が存在しており、そこに気付くことで
私達の人生はより豊かになっていくの
です。

●【経験することで成長する】

人生の様々な体験を経る前と後とで
は、人生の景色の見え方が変わります。
憂いや苦しみから立ち上がり自分を大
きく成長させた人は、そういう体験を
しなかった頃には思いもつかなかった
物の捉え方が出来るようになります。
同じ事象を見るのでも、その見方、受
け止め方の深さが大きく違ってくるの
です。

新型コロナウイルスの蔓延は、文字
通り未曾有の危機と呼ぶべき事態で
す。ただ、この状況でなくては学べな
いこと、気づけないことがあるのも確
かだと私は思うのです。

いま外に出ることを自粛して家で静
かに生活する中で、忙しい時には見え
なかった一緒にいてくれる家族の温も
りや、自分と向き合う静かな時間が必
要である事に気付かされた、という方
も少なくないでしょう。更にグローバ
ルな視点（広い視点）で見ていけば、分
裂に分裂を重ねてきた国際社会が、人
類の滅亡の危機ともいえるこの時に、
お互いに知恵を出し合い、同じ課題に
向かって一つに纏まるチャンスという
一面があるのではないのでしょうか。世
の中に平和や安定を望まない人はいま
せん。にもかかわらず、人類は闘争と
分裂を繰り返すばかりで、今は平和や

安定の世界とは程遠い状態にありま
す。頭では分かっているけれども、本当の意
味で自分自身の問題とは捉えられない
のです。そう思うと、切羽詰まった今
この時こそ、大きな変革の好機なのか
もしれません。

●【心を一つに、今こそ国民力を 発揮する時】

私達日本人にとっては、国民の意識
の高さを発揮する機会です。かつて阪
神・淡路大震災や東日本大震災で見せ
たような落ち着いた行動、譲り合いの
心、忍耐力、前向きな心といった素晴
らしい面が沢山あります。日本人が持
つ力は、今回の出来事に際しても世界
の人達に大きな勇気を与えることでし
よう。いま私達に大切なのは、危機を
いたずらに恐れることなく、姿勢を崩
さずに起こってくる出来事を真つ正面
から受け止めることです。その上で、
その出来事が何を教えてくれているの
か、**仏教が教える「利他の心」を磨く時**
です。

●【祈りある人生】

マイナスに思える出来事の中にも人
として成長していくだけの力が与えら
れている事を思えば、乗り越えようと
いう力が湧いてくると思います。
いつも喜んでいなさい。絶えず祈り
なさい。すべての事について、感謝し
なさい。喜びというと、何か特別の出
来事のように思ってしまうですが、そ
うではありません。美味しく食事がで
きることや健康に活動出来ること、家

族がいてくれること、更に言えば命
が与えられていること、そのこと自
体が喜びなのです。日々の小さな出
来事にも喜びを発見し、またそのこ
とに感謝して生きる。喜びや祈り、
感謝を習慣化していくと、心が静まり、
突然の事態にも動じなくなっていき
ます。いつか、この危機が過ぎ去っ
た時に、自分が深められ成長できて
いることに気付くでしょう。

●【吉田松陰にみる今を 生きる姿勢】

ご存知のように、吉田松陰（よしだ
しょういん）は明治維新の精神的指導
者として知られます。私塾「松下村
塾（しょうかそんじゅく）」においては、
後の明治維新で重要な働きをする多
くの若者に思想的影響を与えた偉人
です。

そんな松陰は安政元年三月二十八
日、伊豆下田の牢にいました。その
前夜、下田沖に停泊していたアメリ
カの軍隊・ペリー提督のポウハタン
号に**金子重輔**（かねこしげのすけ・じゅ
うすけ）と乗り込もうとして失敗した
のです（もちろん私欲のためではなく、
全ては日本国のためにアメリカへ
渡り、最先端の知見を日本で生かさ
うとしたのです）。

松陰は牢番にお願いします。「実
は昨日行李（行李Ⅱ衣類などを入れ
て保存する（送る）のに用いた用具
柳や竹を編んで作る）を流されてしま
い、手元に読み物がない。何か書物
を貸してもらえませんか」と。牢番は

驚いて言いました。「あなた方は大それた密航を企(たくら)み、捕まっているのだ。どっちみち重い刑を受けるのだから、何も檻の中で勉強しなくても良いのではないか」。松陰「ごもつとも。それは覚悟しているが、お仕置きになるまでまだ時間がある。それまではやはり一日の仕事をしなければならぬ。人間はこの世に生きていければ一日の食物を食らい、一日の衣を着、一日の家に住む。それであるから一日の学問、一日の事業に励んで天地万物のご恩に報じなければならぬ。この儀が納得できたら、ぜひ書物を貸してもらいたい」と。それを聞いた牢番は感心して松陰に本を貸しました。松陰は「金子君、今日この時の読書こそ本当の学問だ」と言ったといひます。

このような松陰と牢番のやりとりですが、皆様はどう感じますか？牢に入って処せられる前になっても、松陰は自己修養、勉強を止めませんでした。無駄と言えば無駄なのですが、これは非常に重要なことだと思ひます。人間はどうせ死ぬものである。いくら成長しても、最後には死んでしまうことに変わりはありません。この「どうせ死ぬのだ」という分りきった結論を前にして、どう考えるのか。松陰は、どうせ死ぬにしても最後の一瞬まで最善を尽くそうとした。それが立派な生き方として称えられているのです。

「文明の最高目的は人間人格の発展である」とアレキシス・カレルは言っ

ています。人間以外のあらゆる動物にとつて、生きることは食うことである。人間もまた長い間この連鎖の中にありましたが、人間は文明を発達させることで食料を保存備蓄するようになり、この連鎖を断ち切りました。ただ、ここで考えなければいけません。天は私達に楽をさせ、安逸を食らせるために文明を開く力を人間に与えたのではないと思ひます。人格を更に発展させてほしいという願ひを持って人に文明を開く力を与えたのだと思ひます。

果たして私達は天のこの思いに叶う生き方をしているでしょうか？いま全世界を席卷している新型コロナウィルス旋風を目の当たりに、先人達の姿勢や言葉が思ひ出されます。ともあれ、いま全人類は叡智を結集してこの未曾有の危機に立ち向かつていかなければなりません。

そして、こういう時だからこそ、一人一人の祈りが尊いものとなります。両手を洗った後は、両手を合わせて、皆でお題目「南無妙法蓮華経」と祈りましょう。

南無妙法蓮華経の信仰実践は、日々の「姿勢」にあります。その姿勢の柱となる「心」が要となります。他を思いやる「利他の心」を養ひ育て、御先祖様に恥じない生き様を心掛けたいものです。

今しかできないこと。今だからできること。

御先祖様が私達子供のために受け継いで下さった命を、今この瞬間にも磨き、そして輝かせる努力精進を怠って

はならないのではないのでしょうか。お仏壇の前で、あるいは墓前に額づき、私達の生き様にご安心なされるように、心からのお題目の祈りを捧げることが、大切だと思ひます。そして、それこそが何よりの御先祖様供養に繋がるものと思ひます。

合掌 副任職 谷川寛敬



古いお塔婆について

各家又は霊園等にあるお墓に建立されている古いお塔婆は、七月二十日までにお寺の墓地入口までお持ち下さい。閉眼の御供養を申し上げ、お焚き上げをいたします。どうぞお持ち下さいませ。

